

中国情報（WTO/FTA・貿易・安全・その他）

2008年1月15日号

◎2007年12月小麦市場観測情報

【中国農業部】

中国農業部は先ごろ、2007年12月における小麦市場の観測情報について発表した。その概要は以下のとおりである。

1 北方の冬小麦生産地では気温が高めで、冬小麦の越冬に有利

12月中旬の北方の冬小麦生産地の大部分では気温が高く、冬小麦の越冬には有利な条件となった。そのうち新疆ウイグル自治区の北部では、気温は低かったものの、積雪により地面が覆われたことが冬小麦の越冬に有利に働いた。また、華北および西北地区南部、黄淮河地区（黄河・淮河流域）の大部分の平均気温は適度であったものの、江淮地区（長江・淮河流域）の大部分では雨が多くて日照が少なく、耕地が水分過多となって、冬小麦の丈夫な苗の形成には不利な条件となった。

2 1～11月の小麦輸出は大幅増、輸入は減

海関統計によると、2007年1～11月の中国の累計小麦輸出量は、前年同期比1.3倍増の207.59万トンとなった。同じく累計輸入量は85.55%減の8.28万トンとなった。小麦の主要輸出相手国は韓国（総輸出量の46.9%）、フィリピン（同20.1%）、インドネシア（19.2%）、主な輸入相手国はカナダ、オーストラリア、米国である。

急増する食糧輸出の制御と国内食糧価格の抑制のため、政府は2007年12月20日から小麦などの未加工食糧およびその加工製品の輸出税還付を取り消したほか、12月30日には、2008年1月1日から12月31日までの間、小麦、トウモロコシ、モミ、コメ、大豆などの未加工食糧およびその穀物粉に対し、5～25%の暫定輸出税（麦類及び麦類の粉は、それぞれ20%及び25%）を賦課すると発表した。

3 2007/08年度の国内供給量は需給量を満足、世界の小麦生産量は需要を下回ると予測

【国内市場】2007/08年度（2007年6月～2008年5月）の国内小麦生産量は、小幅な増加と予測されている。消費総量は前年度に比べやや増加し、うち食用消費は安定的だが、国内畜産業の発展およびバイオエネルギー向け加工需要の増加などの影響を受け、飼料消費および工業消費の増加が著しいとみられている。当年度の国内の小麦供給量は需要を満たし、小麦の期末在庫量は前年度に比べやや増加すると見積もられている。

【国際市場】米国農務省（USDA）の12月の予測によると、2007/08年度の世界の小麦生産量は、前年度比1.47%増の60,231万トンと見積もられている。前月の予測に比べ、アルゼンチン、カナダおよびEUの生産量が下方修正されたため、世界の小麦生産量は、前月の予測に比べ100万トン近く下方修正された。これにより期首在庫量が大幅に減少したことから、同年度の世界の小麦総供給量は、前年度比1.97%減の72,661万トンと予測されている。世界の小麦消費量は、0.1%減の61,655万トンとみられている。このため、世界の小麦生産量は需要を満たすことができず、引き続き期末在庫が減少し、前年度比11.28%減の11,006万トン、在庫／消費比は17.85%と見積もられている。世界の小麦期末在庫は1978/79年度以降この30年で最低の水準となったほか、在庫／消費比は1960/61年度以降の47年間で最低レベルとなった。

世界の小麦需給がひっ迫することから、貿易量も減少する。2007/08年度の世界の小麦輸入量は前年度比7.94%減の10,337万トン、輸出量は5.57%減の10,478万トンと予測されている。輸入量が比較的大きい国・地域のうち、EUは前年度比26.53%増と大幅に増加する一方、アルジェリア、ブラジル、インドネシア、日本およびエジプトはそれぞれ9.82%減、9.68%減、4.88%減、4.3%減および4.1%減とみられている。輸出量が比較的大きい国では、米国およびロシアの輸出量は、それぞれ前年度比29.9%増及び11.2%増とみられている。逆にカナダは25.6%減、アルゼンチンは9.9%減とみられている。

4 国内価格は小幅な上昇、国際価格は大幅に反発

（1）国内市場

2007年11月から国内需要が高まったことから、小麦価格は小幅ながら上昇した後、12月に入っても引き続き上昇傾向を維持した。市場安定のため、政府は最低買上小麦の競売を頻繁に実施し、12月5～6日、12～13日、19～20日の競売計画量は、それぞれ351.73万トン、443.27万トン、454.39万トン、実際の成約量はそれぞれ277.96万トン、253.3万トン、164.1万トンで、成約率はそれぞれ79.03%、57.15%、36.11%となった。一回ごとの競売量および成約量は、2006年の各回の競売に比べると高い水準である。政府が備蓄小麦の臨時大量放出を実施するごとに企業需要が満たされたことから、12月中旬の鄭州市（河南省の省都）食糧卸売市場における普通小麦（一般品質の小麦）の卸売価格

は上旬に比べやや下落して1トン当たり1,610元、前月比2.96%高、前年同月比5.78%高となった。

(2) 国際市場

2004/05年度以降、世界の小麦期末在庫は減少を続け、世界の小麦需給がひっ迫する中、2007年6月以降、国際小麦価格は新記録を更新し続けた。また、12月には、USDAによる世界の小麦生産量予測が下方修正されたことから、国際小麦価格は前月に続きやや上向いた後、大幅に高騰した。

【現物取引】12月の西北大西洋の硬紅春麦（蛋白質含有量14%）の平均港湾価格（本船渡し価格＝FOB価格）は1トン当たり442ドルで、前月比21.10%高、前年同月比1.03倍高となった。また、通年の平均価格は、前年比36.85%高の283.49ドルとなった。

【先物価格】12月のカンザス先物取引所における硬紅冬麦の平均先物価格は1トン当たり357.36ドルで、前月比18.88%高、前年同月比90.35%高となった。年平均価格は、前年比38.52%高の238.59ドルとなった。ミネアポリス先物取引所における硬紅春麦の平均先物価格は同398.17ドルで、前月比27.21%高、前年同月比1.14倍高となった。年平均価格は、前年比46.81%高の246.12ドルとなった。

(3) 小麦の内外価格差が拡大

12月は国際価格が大幅に上昇したことから、小麦の内外価格差はさらに拡大した。関税、増値税および港湾諸経費などを含め総合的に考慮すると、12月の米国メキシコ湾における硬紅冬麦（蛋白質含有量12%）の通関渡し価格（Duty Paid：CIF＋関税等）は、同月の国内優良小麦の消費地における卸売価格に比べ1トン当たり2千元以上高く、その価格差は前月よりも600元前後拡大した。